

# 国際交流基金助成事業報告書

薬学部 4 年次生 大谷実加

## 1. はじめに

この度、国際交流基金の助成を受けて、令和 7 年 8 月 26 日から 9 月 3 日までカンボジアを訪問したので、報告いたします。今回私は、NPO 法人のワールドシップオーケストラというボランティア団体に所属し活動を行いました。現地の子どもたちに音楽の楽しさを伝え音楽に触れるきっかけになりたいと思い、参加を決意しました。

## 2. 活動内容

カンボジアの子ども達に「はじめてのオーケストラ体験」を届けることを目的として、孤児院公演、学校公演、カンボジアのマーチングバンドとの共演、そしてカンボジア最大のホールと呼ばれる場所での最終公演と、計 4 回演奏させていただきました。カンボジアで初めての公演は「SOS children's village」という孤児院でした。2～18 才



の 570 人以上の子供たちが暮らしています。演奏を聴きにに来てくれた子供たちは、全員はじめてオーケストラを聞くと言っていました。私たちがリハーサルを行っていると、嬉しそうにまだかまだかと窓枠に指をかけてこちらを覗いていました。重い責任を感じつつ全力で音楽を届け、子ども達の感動をダイレクトに感じる事ができました。また、公演中には指揮者体験、

公演後には楽器体験も行いました。演奏を聴くだけでなく、実際に音楽やはじめての楽器に触れて、子どもたちはとてもキラキラした目をしていました。

3 日目には、現地の Bak Touk High School のマーチングバンドの方々と一緒に練習を行い、4 日目には彼らが通う高校で一緒に公演を行いました。ワークショップでは、私たちが日本で普段行っている基礎練習などを伝え、一緒に練習を行いました。クーラーのない炎天下での練習、不十分な備品や状態があまり良くない楽器、教えてくれる人がいない現状、日本では当たり前のことが当たり前でない事実を、身をもって知ることができました。

普段から音楽に触れているマーチングバンドの子たちに向けた公演では、想像を超えた楽しそうな歓声に驚きました。



最終日にはカンボジア最大のホールで最終公演を行いました。この公演には、カンボジアの日本大使館なども来てくださりました。今まで日本の演奏会では体験したことのない拍手や歓声の量に驚きながらも、観客と一体になって音楽を楽しみ、本当の音楽の楽しさを思い出させてもらいました。

また、5日間一緒に活動を行ってきたカンボジアで唯一のオーケストラである、アンコールユースオーケストラの方達との最後の演奏がとても心に残っています。現地のオーケストラと共演することで、話す言葉が違ってても、最高の演奏を求めて音楽で心を一つにできる特別な時間でした。



### 3. カンボジアの歴史

演奏活動の合間にカンボジアの歴史を学ぶため、トゥールスレン、キリング・フィールドを訪問しました。

トゥールスレン虐殺博物館は、ポル・ポト率いるクメール・ルージュの時代に収容所として使用され、多くの人々に対して虐殺や拷問を行った場所です。元々は高校校舎だったため、建物4棟からなります。知識人とその家族など約2万人が収容されていましたが、生きて帰って来れたのはたったの7人だそうです。中には、当時のままの鉄製のベッド(右写真)が置かれており、収容者は手足を鎖でつながれ尋問、拷問を受けていたそうです。レンガで仕切られた畳一畳くらいの小さな独房、拷問に使われた道具、実際にどのように使用されていたのか詳しい絵などの展示もありました。



人々は後にキリング・フィールドに運ばれ、処刑されました。入ってすぐ目に入る建物は17階建ての大きな「慰霊塔」(右写真)でした。たくさんの頭蓋骨が収納されており、殺害された人の性別や殺害のされ方などに分類されていました。また、キリングツリーという木も実際に残っており、キリングツリーによって約100人の子どもたちの命が奪われました。クメール・ルージュは赤ちゃんの足を持ち、頭をキリングツリーに叩きつけたそうです。その他にも当時の様子が鮮明に残っていました。



### 4. おわりに

私がカンボジアを訪問して目の当たりにしたのは、レンガ色の川、大量のバイクと整備されていない交差点、車のスレスレを歩く人たちでした。他にも、トイレトペーパーがないのは当たり前で、水道水を飲まないのも当たり前、ウォシュレットなんて当然ありませんでした。全てなかったとしても基本的には生きていけますが、日本との違いを毎日考えさせられました。日本では小さいときから音楽に触れ、それが当たり前でしたが、そうではない子たちがいるという現実、カンボジアの過去や現状を身をもって知ることができました。

また、私たちが音楽の楽しさやはじめてのオーケストラ体験を届けに行ったはずが、逆に音楽を心から楽しむことを教えてもらい、私自身が学ぶことの多い1週間でした。音楽

が誰かに喜ばれているということを、こんなにも体感する機会はここでしかできなかったと思います。カンボジアで出会った人はみんな本当に暖かくて優しい人ばかりでした。そんなカンボジアの子どもたちや人々と、音楽を通じて交流ができ、新しい価値観や考えが生まれました。このような貴重な経験ができたのも、国際交流基金助成事業の協力があったことだと感謝しています。本当にありがとうございました。